



キョンサン
韓国慶山市を訪ねて

2015年度（平成27年度）
中学生韓国派遣記念文集



日本國 城陽市 中學生 訪問團

2016. 3. 28

慶山市

사전투표 안내, 「4월 13일 투표할 수 없다면」
별도 신고 없이 전국 어디서나 4월 8일~9일 미리 투표하세요



この文集は城陽市国際交流協会が主催した、2016年3月28日から31日までの3泊4日の中学生韓国派遣団に参加した市内中学生8人の感想文です。

この事業は姉妹都市である大韓民国慶山市キョンサンへの訪問・交流を通して青少年に国際理解を高めもらうために当協会が1994年から実施しているものです。今回で16回目を迎え157人の中学生が慶山市を訪問しました。

隣国である韓国は、サッカーワールドカップ共同開催以来「韓流」ブームで、身近な国となりました。政治的な緊張が高まることもありますが、実際に訪問してみると、人々との交流を通して多くを得られたことが、各人の感想文から読み取れます。

「百聞は一見に如かず」と言う諺のように、文化や習慣を身体で触れ、慶山市の中学生との交流の体験が、将来隣国の仲間として共に歩んでいく礎となり、真に国際的な視野を持った人として成長されることを期待しています。



目次



派遣団の主な日程

				ページ
				2
「韓国訪問」	・ ・ ・ ・ ・	東城陽中学校	3年 一瀬 真友子	3
「韓国に行って」	・ ・ ・ ・ ・	東城陽中学校	1年 大矢 紗羽	5
「韓国派遣に参加して」	・ ・ ・ ・ ・	北城陽中学校	2年 藏貫 郁大	7
「韓国に行って」	・ ・ ・ ・ ・	東城陽中学校	1年 小谷 頼也	9
「私の韓国四日間」	・ ・ ・ ・ ・	東城陽中学校	3年 小島 瑞希	11
「初めての海外、韓国に行って」	・ ・ ・	東城陽中学校	1年 高向 悠佳	13
「韓国を訪れ、日本を知る」	・ ・ ・	京都女子中学校	3年 友次 絢音	15
「韓国派遣団に参加して」	・ ・ ・	西城陽中学校	2年 山下 征哉	17

※学年は2015年度のものです。

あとがき

派遣団団長・城陽市国際交流協会会長 辻 文明 22
 引率・協会職員 大久保 雅由・蓮佛 明子

2015 年度派遣団の主な日程

2016 年 3 月 28 日 (月)

城陽市役所を 7 時 45 分に出発
 関西国際空港から釜山金海空港へ
 バスで慶山市へ移動
 三聖賢歴史文化館
 慶山市長・慶山市議会表敬訪問
 慶山市場見学
 大邱慶北研究所泊

3 月 29 日 (火)

巳洞中学校訪問
 造幣公社見学
 カップウィ登山
 ハヌルホス見学
 城陽公園見学
 大邱慶北研究所泊

3 月 30 日 (水)

東大邱駅から KTX でソウルへ移動
 青瓦台サランチェ (韓食体験)
 漢陽都城博物館見学
 梨花洞路上ミュージアム散策
 ソウルタワー見学
 ホテルスカイパーク明洞Ⅲ泊

3 月 31 日 (木)

昌徳宮 (世界文化遺産) 見学
 雲岷宮 (韓服体験)
 仁寺洞散策
 ロッテマート
 ソウル仁川国際空港から関西国際空港へ
 城陽市役所に 23 時帰着



大韓民国



慶山市



慶山市議会議長と記念撮影



「韓国訪問」

東城陽中学校 3年 一瀬 真友子

城陽市の姉妹都市、^{キョンサン}慶山市。私は、慶山市以外に韓国という国のことをあまり知りませんでした。その上、この派遣団には自分から積極的に行こうと思っていたわけではなく、友達に誘われてなんとなく行きたいなと思って参加しました。日本にいた時は、それほど不安などはありませんでしたが、いざ韓国に旅立つ時になってみると、こんな自分に行く資格があるのかと不安が高まりました。

そんな弱気な気持ちのまま、^{プサンキム}釜山金海空港に着いた私は、何事も体験しなければ分からないので、積極的に交流して韓国の文化を学び、そして楽しむ四日間にしようと思い直しました。

一日目、まず私達は慶山市にある^{サムソンヒョン}三聖賢歴史文化館を見学し、韓国の歴史について学びました。その後、慶山市役所と市議会を訪問しました。たくさんの方々に出迎えて頂き、とてもうれしく思いました。城陽市でも入ったことのない議場で記念写真を撮って頂きました。夕方には^{シジャン}慶山市場に行きました。見た事がない食べ物がたくさん並んでいてにぎわっていました。夕食にはサムゲタンという韓国の伝統料理を食べました。辛さは無く、若鳥が丸ごと入ったとてもおいしい料理です。



巳洞中学校の友だちとプレゼント交換

その晩、バスで宿舎まで帰りました。とても充実したあっという間の一日でした。

二日目、朝早くに私たちは^{サドン}巳洞中学校へ向か

いました。私達と同学年の中学生のみなさんが、K-POPに合わせたかっこいいダンスや伝統的楽器による演奏などで歓迎してくださいました。一緒に昼食を作る内に、仲良くなり友達もできました。韓国の言葉があまり分からないので、英語とジェスチャーでなんとか伝えようとしました。一生懸命に伝えようとすれば、話す言葉が違ってても気持ちは伝わるのだと感じました。この巳洞中学校での交流が、とても楽しく心に残る思い出となりました。



韓国伝統料理トック作り

次に、造幣公社でお金が出来上がる過程を見学し、カップウイ登山をしました。頂上で見た景色は、緑がどこまでも広がっていてとても美しく、疲れがいっぺんにとれました。

その後、「ハヌルホス」という化粧品会社で、自分で調合したパックと化粧水を作りました。自分で使う事はないと思うので、母にプレゼントしようと心を込めて作りました。

そして、楽しい時間はあっという間に過ぎていき、夕食の時間になりました。夕食に食べたプルコギは、とてもおいしかったです。後から辛く感じました。

三日目、私達は慶山市から離れ、首都ソウルに行きました。まず私の目に飛び込んできたのは、たくさん建ち並ぶ高いビルでした。

私の韓国のイメージとは違い、都会的なソウル

にとっても驚きました。

それから私達は、青瓦台サランチュエ^{チョンワデ}で韓食体験をしました。そこでは、日本と韓国との食事のマナーなどの違いを教わりました。例えば、日本では器をもって食べるのが普通ですが、韓国はその逆で、器を持って食べると行儀が悪いとされるのです。日本と韓国を比べて、違うなと感じた事がある反面、日本と同じだなと感じる事がたくさんあり、日本と韓国って、やっぱり似ているんだなと、自分で実際体験できてとてもよかったと思います。

それから、漢陽都城博物館^{ハンヤンドンソン}に行き、長い歴史のある城壁について勉強しました。私は、今までこの遺跡の事を知りませんでしたが、現在、世界遺産登録を目指しておられるそうです。世界遺産になる前に、自分の目で見る事ができて良かったなと思いました。

そして三日目の夕食はサムパという日本の焼肉のようなもので、サンチュなどの葉で肉を包んで食べました。この食べ方は、日本でもよくしますが、いろんな葉っぱで包むところが違うなと思いました。

その後すぐに店を出て、ソウルタワーの最上階に上がり、ソウルの夜景を楽しみました。とてもきれいで、しばらく見とれてしまいました。

とても楽しかったので短く感じた四日間、

とうとう最後の日です。私達は昌徳宮^{チャンドックン}、仁寺洞^{インサドン}を観光した後、ロッテマートへ行き、はじめて自分で注文した昼食を食べました。

それから、日本へのお土産を買い、ホテルをチェックアウトして、バスで空港へ向かいました。

バスの中で、この四日間をみんなで振り返り発表もしました。最初は不安でいっぱいでしたが、最後には本当に行ってよかったと思いました。私にとって、一生の思い出に残る貴重な体験でした。



雲峴宮で韓服体験



釜山キム 釜山金海空港から慶山市へ



空港に到着！通訳の安さんの出迎え
さあ！慶山市へ

途中に寄った休憩所で「うどん」を注文！
日本の味と似ていました。



釜山
清道セマウル休憩所で





「韓国に行って」

東城陽中学校 1年 おおや さわ 大矢 紗羽

三泊四日で行った韓国では、とても貴重な体験をして来たと思う。

家族旅行で行くのではなく、市の代表として行くことになり、しかも知らない人もいる中で、仲良くすることができるかなと少し不安になりながらの三泊四日だったが、初日でもうすぐにうちとけることができたのでよかった。

初日、朝早くに市役所に集まって、バスで関西空港に到着。バスの中では、トランプをしながら暇つぶしをしていた。

関西空港についてから、荷物を預けて飛行機に乗り、1時間30分余りで韓国に着いた。飛行機の中から見た韓国で1番に思ったことは、茶色っぽいなということ。日本での緑が頭に残りすぎて、余計にそう思ったのかな。

韓国について初めに行ったのは、サービスステーション。そこで食べたうどんの量が半端でなく多かった。完食したのはたった2人。自分でもよくあんなに食べられたと思う。

慶山市に着いて、中学生韓国派遣団では初めて行くという「三聖賢博物館」へ行った。休館日なのに特別に開館していただいたので、私たち以外のお客さんが誰もいなかった。ビデオは三聖賢である元暁、薛聰、一然についてのものだった。韓国語だったので、あまりわからなかったけれど、彼らがすごい人だということはわかった。そんなすごい人たちが全員慶山出身ということに、偶然って本当にあるのだなと知った。博物館では、最新の技術も結構使われていて、進んでいるということがわかった。

次に市長表敬訪問をし、市議会にも行った。市長はとても気さくな方で、日本語であいさつしてくださいました。市長へのあいさつをしっかり練習したのに、緊張しすぎて、忘れてしまった。けれど、なんとか最後までやり通せた。慶山の特産である

ナツメを使ったお菓子はとても美味しかったが、ナツメ茶はあまり口に合わなかった。市議会へ訪問した時も「五味子茶」という漢方薬入りのお茶もいただいたが、意外と美味しかった。市議会では、議会で使っている場所へも案内してもらい、とても興味がわいた。真ん中に座るのはとても気分が良かった。



夜は、サムゲタンを食べた。骨も入っていたから、食べるのに一苦労したが、とても美味しかった。塩をいれると、もっといい味になった。

2日目は巳洞中学校へ行き、慶山の中学生と交流をした。バスが学校の前に着いて、外を見た時、校門から校舎まで、巳洞中の方々がズラーッと並んでいたのが驚いた。彼女たちは「こんにちは」とあいさつしてくれたので、私も「アンニョハセヨ」と言った。あんなに大勢いて、すごく恥ずかしかった。校長先生があいさつをしている時も、すごくハイテンションで、それほど楽しみにしてくれていたのだと感動した。

まず、「ユンノリ」というゲームをA、B、C、Dに分かれてした。私のチーム、Aチームは2位だった。もう1つは、ボールを上を上げて、何回続くかというゲームで、私たち日本チームが勝利。その後、ユンノリで同じチームだった人たちと一緒に昼食を作り、食べ、私のパートナーだった2人に日本からのおみやげをあげた。すると、2人

もおみやげをくれて、うれしかった。



巳洞中学校の学生と友だちになりました

巳洞中学校を後にし、造幣公社を見学。大きな音がずっと出ていたので、その中で働いている人たち、大丈夫かなと思った。

カッパウイ登山は、急斜面なところだったからすごく疲れた。けれど、しっかり通訳さんについて行くことができた。

ハヌルホスでは、化粧品を作った。パックは2つあるから1つは自分で使おうかな。

3日目、K T Xに乗ってソウルに到着。

青瓦台^{チョンワデ}サランチュエの韓食体験でキムパ(のり巻)を作ったが、美味しかった。またやってみたい。

漢陽都城博物館^{ハニヤンドン}では、昔のソウルがどんな風に

なっていたか、どういう形で、どんな歴史だったか、日本の歴史と比べながら考えることができた。



雲峴宮で韓服体験

昌徳宮^{チャンドックン}では、昔から残っている建造物を見て回った。昔の王様がどんな暮らしをしていたか、どこに誰が住んでいたか、どんな特徴があったか、ガイドの方に説明してもらいなが

ら回ることができた。

韓国の方々は、私たちをととても歓迎してくれて、正直、とてもうれしかった。みなさん、温かく迎え入れてくれて、とても思い出となった。本来の目的、歴史を見たいという目的を果たすことができ、満足した。次また行く機会があるならば、韓国語をもっと勉強してから行きたいと思う。



キョンサンシジャン
慶山市場



国際交流担当の鄭明淑^{ジョンミンスク}さんにイチゴを買っていただきました。甘くて美味しかった！

慶山市場では、韓国独特の食べ物をはじめ野菜、鮮魚、果物、衣類、靴など様々なものが販売されています。慶山市の台所として多くの買い物客でにぎわっています。





「韓国派遣に参加して」

北城陽中学校 2年 くらぬき いくひろ
藏貫 郁大

ぼくが今回韓国の派遣に参加しようと思った理由は、外国の様々な文化にふれてみたかったからと、この韓国の派遣に参加して物の見方や考え方が変わったり、将来に役立ったりすると思ったからです。

出発当日、朝早くに城陽市役所に集まり、そこからバスに乗り関西国際空港に行きました。今回初めて飛行機に乗って外国に行くので、最初は怖かったりもしましたが、すぐに慣れたのでよかったです。

そして、^{キョンサン}慶山市に着いて、まず最初に行ったのが「^{サムソンヒョン}三聖賢歴史文化館」です。ここは、慶山出身で韓国を代表する人をメインとした展示館です。^{ウォンヒョ ソルチヨン イリヨン}元暁、薛聰、一然のことがよくわかりました。ここには、城陽市の子供たちが描いた絵も飾られています。

その次に、慶山市長表敬訪問に行きました。ここでは、慶山市長に慶山市のことを教えていただきました。そして、慶山市議会訪問をしたあとに^{シジャン}慶山市場に行き、それからサムゲタンを食べに行きました。サムゲタンは、韓国を代表する食べ物の一つで、若鳥のなかにもち米やくるみ・松の実・ニンニク等を入れて煮込んだ料理です。

2日目は、まず最初に^{サドン}巳洞中学校を訪問しました。バスを降りるとそこには、すごい人数の中学生がぼくたちを出迎えてくださっていてとてもうれしかったです。巳洞中学校の生徒が自己紹介をするときに、日本語で自己紹介をしていたのは、すごいと思いました。また、みんなでゲームをした時やみんなで料理を作ったりする時も、ぼくたちにやさしく丁寧に教えてくれたのは、本当にうれしかったです。言葉の壁があり、うまく伝えることができなかったり、言われた言葉をうまく理解できなかったりと苦戦した時もありましたが、それでも手や英語を使って伝わった時は、うれし

かったです。短い時間だったけれど、貴重な時間が持てたのでごくうれしかったです。



巳洞中学校でお別れの挨拶

次にぼくたちは、造幣公社を見学しました。お金を作っている場所には、めったに行けない場所なのでごく楽しみにしていました。それにしても驚いたのが、韓国のお金以外の貨幣やメダルも作っていることです。また、機会があれば、日本の造幣公社にもいつか行って、韓国の造幣公社と日本の造幣公社を比べてみて、両方の造幣公社の違いを見つけてみたいと思いました。

次にぼくたちは、カップウイ登山をしました。道は整備されているのですが、階段の数が多く急になっているので、登るのがすごく大変で、すごく疲れしました。しかし、山頂での景色がすごくきれいでした。



2回目の夕食 フルコギ定食

次に、ハヌルホスという化粧品が有名なお店で、

パックを作る貴重な体験ができてよかったです。

2日目の夕食は、プルコギなのですが、それ以外にも見たことがない料理が出てきたので、最初は少し抵抗があったけれど、食べてみたらすごくおいしかったので、ほぼ全部を残さず食べることができてよかったです。

3日目は朝からソウルへ移動するために、韓国的高速鉄道であるKTXに乗れてすごくうれしかったです。そして、ソウル駅に着いたらホテルに行って、そこからお昼を食べに青瓦台サラン^{チョンワデ}チェへ行き、そこで韓食体験をしました。

そして、お昼の韓食体験をしたらバスに乗って、^{ハニョンドソン}漢陽都城博物館に行きました。ここは、186キロに及ぶ漢陽都城がある場所で、漢陽都城の歴史のことが一目でわかるために造られた物です。

その次は、ホテルで一休みをしてからソウルタワーに向かいました。ソウルタワーは、大韓民国^{ヨンサン ナムサン}ソウル特別市龍山の南山公園の頂上近くにあるタワーで、高さが243メートルもあります。そして、みんなでソウルタワーの上に登って夜景を見たり

お土産を買ったりして楽しかったです。



最終日4日目は、韓国の世界遺産である昌徳宮^{チャンドックン}に行きました。内を見て行くとそれぞれに役割のある建物があり、長年たってもきれいな状態に驚きました。

次にロッテマートに行き昼食を取って、家へのお土産などを買いました。

この4日間で学んだことは、とてつもなく多く、そしてタメになるものでした。それといつもとは違う体験ができてよかったです。そして、また同じメンバーで行きたいです。



カッパウイ



ようやく山頂に到着しました。山頂からの眺めは最高！





「韓国に行って」

こたに らいや
東城陽中学校 1年 小谷 頼也

ぼくが今回中学生韓国派遣団に申し込んだ理由は、兄二人も中学生派遣団として韓国に行っていて、ぼくにも行くようにとすすめてくれたからです。それと日本と韓国の違いを知りたいと思ったからです。

ぼくは、今まで外国に行ったことがありませんでした。なので、今回初めての外国を中学生派遣団として行きたいと思いました。食事のことや家族と離れて外国へ行くこと、韓国の人とコミュニケーションがうまくとれるかなど不安なことはたくさんありましたが、それ以上に日本以外の国に行ってみたいという気持ちが強かったです。

申し込んで参加できる事になった時は、とてもうれしかったです。

行ける事がきまったので、ぼくはパスポートを申請しました。顔写真が少しぼやけているからと撮り直ししてくるように言われました。パスポートの写真は普通の証明写真とは違い、きまりがとても厳しいと思いました。そして無事にパスポートがとれて準備が完了しました。

ぼくは、結団式で市長にあいさつをする役割でした。少し緊張したけれど、日本語のあいさつだったのでうまく話すことができました。

いよいよ初日、市役所を出発してまだ一緒にいくみんなとあまり親しく話ができなかったけど、少しずつ話をしたりしました。

関西空港から釜山金海空港まではあっという間で、すごく近いなと思いました。

二日目、韓国の中学生とうまくコミュニケーションがとれるか不安だったけど、韓国の中学生から日本語や英語で話しかけてくれたのでうれしかったし、接しやすくてよかったです。何と言っているか分からなくても、とにかく笑顔でいれば大丈夫だと思いました。

三日目、KTXの車内では、いろんな話をしな

がらハンバーガーを二つとポテトもたくさん食べたので、昼食前なのにお腹がいっぱいになってしまいました。



靑瓦台サランチェで韓食体験（キンパとチヂミ作り）

チョンワデ
靑瓦台サランチェでは、自分達でキンパを作って食べました。みんなと楽しく作れたので良い経験になったし、韓国の伝統料理について理解を深めることができました。

サムソンヒョン ハニヤンドソン
三聖賢歴史文化館・漢陽都城博物館・世界遺産 チャンドックン
の昌徳宮では、ガイドのキムさんが分かりやすく説明して下さって韓国の歴史を詳しく学ぶことができました。



ハヌルホス化粧品でマスクパック作りに挑戦！

四日目、ロツテマートは想像以上に広くて家族から頼まれていたお土産を買えるか心配だったけど、見つけて買うことができたので良かったです。ウォンに変えた決められた金額の中で買い物したのは初めてだったので、どれくらい使えばどれくらいの物を買い物できるか分からなくて、レジで

待っている時は少しドキドキしました。持っているお金を使うのは予想以上に早かったです。

関西国際空港についた時は、「帰ってきたー」と思いました。関西国際空港から市役所までのバスでは行きの静かな雰囲気とは違い、みんなでワイワイ楽しく話をして帰ってきました。この四日間を一緒に過ごして、とても仲の良い友達になれたと思います。

韓国は、親切な人が多く、とてもいい国でした。

みんなと一緒にいろいろなところへ行き、いろいろなことをして、たくさんの思い出を作ることができました。

ぼくにとって初めての外国だったので、見るもの、聞くもの、体験すること全てが初めての経験でした。

日本と比べて似ているなど思ったところもあったし、違うところもありました。似ていると思ったのは、街並みとかは日本とあまり変わらないと思いました。料理や食べ物はおいしかったけれど、日本に比べて辛いものが多かったです。必ず一食に一つは辛いものがありました。みそ汁まで辛かったのはとても驚きました。でも一番びっくりしたのはバスです。韓国のバスは日本ではあり得ないくらい運転が荒くて、少ししんどくなりました。しっかり停車する前にドアを開けたり、ドアを閉める前に発進したりしました。韓国はバスの

数が多くて、運転席が左側なので、乗車するのが右側からで違和感を感じました。バスはまた乗りたいとは思わないけれど、驚きと発見が一番ありました。とてもいい経験になりました。



初めての海外で、食事のことや、言語の違い、家族と離れて行くということに不安があったけれど、一緒に行った友達や引率の方、韓国のガイドさんのおかげで不安を感じることなく、楽しい四日間を過ごすことができました。本当にお世話になりました。

ぼくも兄達のように、貴重な体験を存分に楽しむことができたし、一生の思い出を作ることができました。

行く前は四日間は長いなーと思っていたけど、あっという間の四日間でした。

とても疲れたけど、とても楽しかったです。ありがとうございました。

城陽公園



城陽市と慶山市の姉妹都市盟約（1991年1月22日締結）20周年を記念して慶山市に造られた公園です。2011年に着工し、2012年9月26日に竣工しました。





「私の韓国四日間」

こじま みずき
東城陽中学校3年 小島 瑞希

私は、今回の中学生韓国派遣団に参加し、普段の生活や旅行では経験できない事が出来、知らないことが沢山分り、とても良い四日間を過ごす事が出来ました。今回はその四日間を振り返ると共に、これからの自分について考えたいと思います。

まず初めに、私がこの訪問団に参加した理由です。それは中学一年生の夏休みに、東城陽中学校に韓国の中学生が来られ、交流をしましたが、なかなか喋る事が出来ず、悔いの残る交流会になってしまいました。なので、今回は自分が韓国に行き、中学一年生の悔しい気持ちを晴らすために、又、外国の中学生との交流というもう二度と経験出来ない様な事を経験しておきたいと思い参加しました。

韓国に行く前までは、沢山の不安がありました。その中でも一番の不安は次の様な事でした。私は初対面の人と喋るのがとても苦手です。ですから、訪韓団のみなさんと仲良くする事が出来るだろうか、更に韓国に行けば、(当たり前ですが)日本語は通じません。韓国語も分からないし、英語も未熟なのに、^{サドン}巳洞中学校の中学生とコミュニケーションを取り、楽しむ事が出来るだろうか、という事です。このような不安があるまま、出発の日を迎えました。訪問団のみんなとは空港に行く時のバスで仲良くなり、不安が少し和らぎました。

韓国に着いた一日目は日本とは全く違う文化に驚く事が多く、国の場所は近いのに、それぞれ国によって異なる文化があるという事は素晴らしいという事を再確認する事が出来ました。そして、これからのグローバル社会で国際関係が発達して行くであろう世の中を生きていく私たちには、こういった異なる文化を理解し尊重していく必要があると考えさせられました。

二日目は、待ちに待った巳洞中学校への訪問でした。最初はたくさんの中学生に拍手で迎えられ、

また、日本語で「こんにちは」や「かわいい」などと声を掛けてもらい緊張はしましたが、とても嬉しく思いました。最初はとても緊張しましたが、巳洞中学校の中学生はとても積極的に話しかけてくださり、韓国の伝統的は遊びである『ユンノリ』や『チェギチャギ』で遊んだり、伝統的な料理である『トック』と一緒に作って食べたりしているうちに打ち解け、メールアドレスを交換する事が出来ました。私は、中学一年のころは出来なかったことが出来、悔いが残らない交流会となりました。この時、「言葉の壁があっても、大丈夫なんだ。」「自分から積極的に話し掛けて行くことによって友だちの輪を広げて行く事が出来るんだ。」と自分への自信にも繋がりました。この自信は、春からの高校生活、そして、これからの人生において、自分にとって大きなものとなったのではないかと思います。そして、韓国で出来た友だちの一人は今でも頻繁にやり取りをしていて、日本に来るために日本語を勉強しているという事を知り、とても嬉しく、また凄いと思いました。自分も、韓国語を少しでもよいから、勉強してみたいと韓国語への関心を持つことが出来ました。



三日目、四日目のソウルでは、周りの事をよく見て行動し、心配することが大切だという事を学ぶことが出来ました。一人が別行動をしてしまうと、周りの人の気分を悪くしてしまいますし、心

配もかけてしまいます。なので、これから今回の様な団体行動の時は、気をつけたいと思いました。

この四日間、韓国では様々な本場の韓国料理を味わう事ができました。韓国では料理には、全てキムチが出てきました。日本のキムチとは違い、辛いのはからかったのですが、後に甘さが来るキムチもあり、本場の味を味わう事は大切だと思いました。



韓国伝統料理作り チヂミを焼きました

今日の世の中は世界の一本化、つまりグローバル化が進展し、様々な国の文化や情報が容易に入ってくるようになりました。またSNSが発達した世の中を生きていく私たちには、英語力やコミュニケーション力が重要視されるようになりました。英語力やコミュニケーション力は経験を重ねる事によって上達するのではないかと、今回の

韓国への訪問で思いました。

学校の授業などでは、分からないことがあれば、先生にすぐ質問して解決できますが、実際外国で一人で何か物を買おうとすると、日本語はほとんど通じません。英語は少ししか出来ません。その時必要になるのは、コミュニケーション力だと思います。韓国では言葉が通じなくても、コミュニケーション力で、伝えたい事を伝える事が出来ました。こうして、ここからスタートしていく事が私にとって大きな一歩であり、これからの人生のなかで大きな自信となりました。

『百聞は一見に如かず』このことわざの様に、沢山話を聞くよりも、実際に本場に行き、体験・経験する事がこれからの世の中を生きて行く上で、大切だと思いました。



雲岷宮で韓服体験



ハヌルホス

韓方化粧品ハヌルホスでマスクパック作りを体験しました。

うまく出来るかな？



さあ！がんばるぞ〜





「初めての海外、韓国に行って」

たかむき ゆうか
東城陽中学校 1年 高向 悠佳

私は韓国に行く前、初めての海外を、とても楽しみにしていました。でも一方で、食べ物がちゃんと食べられるか、話しかけられたらどうしたらいいのかなど、たくさんの不安がありました。そんな私が四日間、韓国で過ごして楽しかったことや興味を持ったこと、思ったことなどを紹介していきます。

まず、一番楽しかったのは、^{サドン}巳洞中学校に行ったことです。バスを降りると、大きな拍手につつまれました。道の両側に巳洞中学校の人が並び、そのまん中を歩きました。はずかしかったけれど、自分がスターになったようで、とてもうれしかったです。みんながあたたかく、私達が来たことをとてもうれしそうに、出迎えてくれました。



巳洞中学校 交流会での挨拶

初めに、二つのことをして遊びました。一つ目は、棒を投げ、コマをすすめる遊びです。チームの中で、「がんばれ!」や「~を出して!」など、たくさんの声かけがあり、みんなの仲が深まりました。二つ目は、板盤をロープで操作しながら、ボールを弾ませる遊びです。これはチームワークが大切で、最初は全然できなかったけど、慣れてくると、三十回以上も弾ませることができるようになりました。とても楽しむことができました。

次に、お雑煮のようなものを韓国の学生といっしょに作りました。言葉が通じないから、身ぶり手ぶりや英語で話しました。「This、in」や「Is

this OK?」や「ジュージュウ、パツ」と言ってフライパンでパツと卵をひっくり返すしぐさをしたりしました。私達が協力して作ってできあがったものは、とてもおいしかったです。

言葉のかべを乗り越えて、コミュニケーションをとれ、また、新しい友達がたくさんできてうれしかったです。

次に一番感動したのは、ソウルタワーに行って、夜景を見たことです。バスを降りてすぐ見えた夜景やソウルタワーの大きさに感動しました。タワー自体が光り、黒くて暗い空につき出ているのは、とても迫力がありました。また、タワーから眺める街の光が、とても美しかったです。私達の住んでいる所の近くには、高く美しい建物がなから、ソウルタワーを見れて、登れて、夜景を見れてうれしかったです。

そして一番興味を持ったことは、^{チャンドクケン}昌徳宮に行つて、王様の寝る所などを見たことです。だいたい



雲峴宮で韓服体験

のところが赤色で、私的には、日本と西洋の文化がまざっているなと思いました。日本の文化というのは、日本庭園と似たようなものがあつたことです。西洋の文化というのは、部屋の中に置

いてあつた椅子や、シャンデリアがあつたことです。王妃様の部屋の近くでは、四季のお花が見れるとわかりました。きれいなお花が、そんな近く

で見れるのは、いいなと思いました。今も昔も、日本でも外国の韓国でも、お花を見て楽しむのは、変わらないんだと思います。

また、チマ・チョゴリを着たことも、とても印象に残っています。私のチマは、きれいな花びらがついていて、かわいかったです。でも、チマ・チョゴリを着ると走りにくいし、動きづらいのに、昔の人は急ぐ時、どうしていたのだろうと、不思議に思いました。どたどたと走る人もいないし、色とりどりのチマ・チョゴリを着ている人がいた王宮は、はなやかだったのではないかなと思います。

慶山^{キョンサン}市長にあえたのも、一つの思い出です。慶山市について紹介してもらって、慶山市には小学校、中学校、高校、大学とあり、その数も多いと知りました。とても教育熱心な都市だと思いました。また、市議会に行って、議長席の近くに行くと、とてもえらい人になったような気がしました。次は、城陽市議会も訪ねてみたいなと思います。

青瓦台^{チョンワデ}サランチェで韓食体験をしたのも、一つの思い出です。キンパは、日本のまきずしに似ていて、おいしかったです。実際に作ると、まく時がポイントで、具がはみ出さないようにや、厚さが太くなりすぎないようにや、まき終わった後は、

のりとのりをしっかりくっつけるなど、難しかったです。いっしょに食べたおこのみやきに似ているチヂミはからくて、さすがキムチの国、韓国だなと思いました。日本では節分にまきずしを食べるので、その時は私がまいてみたいと思います。



青瓦台サランチェでキンパ作り体験
おいしくできました！マッシュヨ！

夜、寝る前にみんなで遊んだことも、楽しかった思い出です。ウノや、トランプをしたりして、楽しく遊びました。

私は韓国に行って、何よりも楽しかったです。最初は不安だったけど、韓国に入国した時には、そんなものはふっとんで、外国に来た、と、ドキドキワクワクしていました。少し自立して、成長できたかなと思います。韓国でのことを、これから活かしていきたいと思います。



サムソンヒョン
三聖賢歴史文化公園

サムソンヒョン
三聖賢とは、慶山市で生まれた“民族の師匠”と
ウオンヒョ ソルチョン イリョン
言われる3人(元暁、薛聰、一然)の人物です。



三聖賢歴史文化公園入口で記念撮影



三聖賢歴史文化館



三聖賢歴史文化公園の様子



「韓国を訪れ、日本を知る」

ともつぎ あやね
京都女子中学校3年 友次 絢音

日本から一番近い国で、昔から貿易などの関わりがある韓国。その韓国について私が知っているのは、キムチなど辛い食べ物が多いことと、あいさつは「アンニョンハセヨ」と言うことぐらいでした。そんな私が韓国に興味を持つようになったのは、中学三年生の日本の政治・歴史の授業の中で韓国との関係を学んだこと、「ミセンー未生一」という韓国ドラマを母にすすめられて見始めたことがきっかけです。これらから、日本と関係が深い国である韓国の、ほとんど日本と変わらない現在の日常風景などを知り、より身近に感じるようになりました。さらに、実際訪れることで、文化を身体で感じ韓国人と交流してみたいと思い、今回韓国派遣団に参加することを決めました。

初めての海外ということもあり、韓国に到着して目にとびこんでくる景色はすべて新鮮で、車は左ハンドル、右側通行で道路は少なくとも片側三車線であるなど日本での感覚と異なり、驚きの連続でした。すれちがう人はほぼ韓国人で、お店の看板もハングル文字という、日常生活とは違う景色に最初はとまどいしましたが、四日間ですっかり慣れました。

今回の派遣の行程で、私が最も楽しみにしていたのは、姉妹都市慶山市キョンサンにある巳洞中学校サドンの訪問です。代表で校長先生にあいさつする担当だったため少し緊張もありましたが、韓国の若者の間では今どのようなことがはやっているのかなど中学生に質問したいことが沢山あり、はやく交流したいという気持ちが日に日に大きくなっていました。

待ちに待った訪問は、二日目の朝早く。バスで学校に到着すると、入学式のように学生と先生方が入口から校内へと並び、拍手で温かく出迎えてくださいました。「アンニョンハセヨ！」と学生にあいさつすると、「こんにちは！」と返してく

れてお互い自然に笑顔になり、あいさつの力を感
じました。



まず行われたのは歓迎式。ここで、私は校長先生にあいさつをしました。紙を見て話すと、相手の心に響かないと思い、本番は韓国語を覚え、目を見て話そうと心に決めていました。私にとっては暗号のようで難しかったけれど、事前にガイド・通訳の方にキレイな発音を教えていただいたので、本番は自信をもって堂々と発表することができたと思います。話し終わったときに、校長先生が私の手をぎゅっと握り笑顔で、「ありがとう。」と言ってくださったので、思いが伝わったのだなとうれしさと胸がいっぱいになりました。

その後、グループに分かれて韓国の伝統あそび（ユンノリ、協同チェギチャギ）で巳洞中学生と交流し、元気いっぱいだけれど大人びてみえる彼らに、日本の中学生とは違うイメージをもちました。

韓国のお雑煮づくりでは、二人の女子中学生と英語と身ぶり手ぶりをを使って会話することができました。その会話の中で知った若者の間で今はやっていることをいくつかあげてみようと思います。

「ドラえもん」「クレヨンしんちゃん」はもちろん、「ハイキュー!!」など最近日本でも人気のマンガ・アニメ。嵐など日本のアイドルや、EXO・

BIGBANG といった K-POP。じゃがビーなど日本のお菓子。

こうして見ると、日本と文化が身近にあることがわかります。そして話していく中で彼女たちに「両親は何の仕事をしているの?」と質問されました。普通、日本人は初対面の相手と話すとき、本人以外の内容はあまりふれません。日本とのコミュニケーションの取り方の違いに衝撃を受けました。逆にその質問を相手にすることがそのときできなかったのが残念です。あっという間に時間が過ぎ、お別れするとき、いろいろなことを教えてくれた二人の女子中学生が、「日本に行ったときは、絶対会おうね!」とハグしてくれました。この、二人の国を越えた友達とは、今でもメールを通じてつながっています。



中学生からもらった沢山のお土産と、巳洞中学校での思い出は、私にとってかけがえのないものになりました。

慶山市・ソウルを訪れたことで、私は韓国を知ると同時に日本も改めて知ることができたと思い

ます。「日本人は”シャイ”である」とテレビで外国人がよく言っていますが、日本から出たことがない私はその言葉に実感がありませんでした。しかし今回、韓国を訪れて、日本人は”シャイ”ということに身に染みて感じました。



韓国人は、自分の主張をはっきり言葉にして大きな声で相手に伝えます。そして、自分をアピールすることがとても上手です。ガイドの方が、「日本人は実力があるのに、謙虚だから様々な場面で損

をしている。」と話すのを聞いて、外国人の前でも自分に自信をもって対等にコミュニケーションをとれるよう心がけていきたいと思いました。

グローバル社会と言われる今、日本だけでなく常に海外に目を向けることが大切になってきています。そのために、教養・知識を身につけることが必要です。これからの学校生活を充実したものにし、機会があればまた海外を訪れたいと思います。

最後に、この韓国派遣に関わってくださったすべての方々に心から感謝申し上げます。



ソウルタワー





「韓国派遣団に参加して」

やました もとや
西城陽中学校 2年 山下 征哉

僕は、「近くて遠い国」と呼ばれる韓国と日本との異なる点は？同じ点は？という疑問を持ちながら、韓国へと旅立ちました。

まず、韓国に着いて驚いたこと、それは、町全体が韓国語だったことです。こんなこと当たり前と思っていたのに、いつも、身の回りは日本語であふれていて、戸惑いを隠せませんでした。これが、海外に行くということなのだ実感することができました。



慶山市議会議長に挨拶

初日に表敬訪問で訪れた「^{キョンサン}慶山市役所」では、ここは日本なのではないかと感じる出来事がありました。それは、日本から来た僕たちを、市役所の職員さん・市長さんがとても温かく迎えてくれたことです。お客さんを盛大に歓迎してあげようとする気持ちは、日本も韓国も変わらないと思いました。国同士が多く問題を抱えていても一対一の関係は良好であるのど感じました。

二日目に訪れた「^{サドン}巳洞中学校」では、言葉では表しきれないほどの感動をおぼえました。韓国語が分からない僕たちと日本語がほとんど分からない中学生のみんなとの交流、不安と楽しみでいっぱいでした。ゲームをしたり、一緒に韓国料理を作ったりしていく中で、コミュニケーションをはかろうと、ジェスチャーや英語を用いていると、すぐに打ち解けていきました。いかにして、自分の気持ちや思いを伝えていくかが大切だと思いま

した。言語がちがっても、相手に伝えたいという気持ちだけは変わりません。こうした気持ちが、僕たちと彼らを繋ぐ架け橋になったのではないかと思います。新しく増えた韓国の友達を一生のものにしていきたく強く思い、個人的にも交流を続け、また会う日には、この日の思い出を語りあえたらいいなと思います。交換しあったメールやコミュニケーションアプリを使って、これからも連絡を取り合っていくつもりです。次は、日本にも来てもらえたらな。

同日、訪れた「城陽公園」は、城陽市と慶山市が姉妹都市盟約を締結後 20 周年を記念して 2012 年に造られた公園で、より両市の親密さが分かりました。今年で姉妹都市盟約 25 周年を迎え、これから先、何十年も、何百年も結び付の強い関係になっていけば良いと思います。そのためにも、これからを担う僕たちと、慶山市の同世代のみんなで力を合わせ、その交流を続けていかななくてはならないと思います。慶山市の学生も同じ気持ちであると思います。これからの両市は僕たちにお任せください！！

次に、実際に韓国で感じたマナーや文化の違いについて紹介します。



ソウルでの夕食 サムギョプサルを食べました

一つ目は言語。ハンゲル文字は、世界で唯一、作った人が分かっている、自国の言語に思い入れ

が強いのではないかと思います。

二つ目は食事。日本とは違い、何といても辛いのが当たり前で、毎食キムチが出てきました。マナーも違い、皿は持ち上げずに置いて食べ、使う道具（箸・皿）は銀色でした。

三つ目は民族衣装。日本では昔から「着物」が着られてきたが、韓国では「韓服」が着られてきました。今でも特別な行事などでは着ることがあり、朝鮮半島独特の衣装です。実際に着用してみましたが、とても楽に着ることができました。

このように、韓国と日本は大きく違う部分があります。紹介した以外にもまだ、たくさんの違いを発見することができました。



しかし、ただただ違うだけではありません。やはり、同じ地球に住む人同士、また、隣の国の人同士、同じところもあります。今回の韓国派遣で一番考えたのは、『心』についてです。派遣で訪

れた慶山市役所・慶山市議会・巳洞中学校・ホテルなど、行く先々で僕たちを温かく出迎えていただき、とてもうれしかったです。出会う一人一人が「おもてなし」の気持ちを持っていて、お客さんを迎え入れる、これはまさに、日本と変わらない文化だと思います。人としての在り方は、日本と韓国、国が違って同じだと思います。こうした人同士の思いやりは国境を越えて、パスポートのようなものだと思います。人同士の心と心が通い合った時、初めて生まれる友情や仲間意識を韓国で感じることができました。言語や文化が違うだけの僕たち、国境という壁で離れている僕たちは、心で繋がり合えるということが明確にわかりました。『心』は他の何物にも代えられない、とても重要なコミュニケーションツールであると思います。ということは、良い心も悪い心も相手には伝わっているということです。常に相手のことを考え、やさしい気持ち、思いやる気持ちを持った人にならなくてはいけないと思います。これが、韓国派遣で学んだことの全てといっても過言ではないといってもよいくらい、大切な事だと思います。

今回の韓国派遣では、当初の疑問に対する答えを探していく中で、大切なことに気づくことができ、本当によかったと思いました。



～朝食バイキング～
朝からキムチがありました。



テグキョンブク
大邱慶北研修所



韓国では、写真を撮る時ピースの代わりに指で心を作るそうです。



慶山市長表敬訪問



チェヨンジョ
崔永柞市長が一人一人に名刺をくださいました。

慶山市議会訪問



慶山市役所と市議会



イチョンス
李千壽市議会議長に見送りいただきました。



《《歓迎行事》》



ダンスと韓国伝統打楽器の演奏で歓迎！

韓国伝統遊び「ユンノリ」と「チェギチャギ」をしました。ユンノリは日本の双六に似た遊びです。

《《韓国料理体験》》



韓国伝統料理「トック」を作りました。
トックはお米で作ったお餅です。



仲良くなった巴洞中学校の皆さんと記念撮影。
楽しい時間はすぐに過ぎてしまいました。
またいつか会える日を楽しみに。

또 만나요! (また、会いましょう!)



ソウル

韓国伝統料理「キンパ」と「チヂミ」作りを体験

《青瓦台サランチェ》



ハニャンドソン
《漢陽都城博物館》



約 70 人の作家と住民による約 80 個もの作品が、坂の上にキャンパスを広げたように、街に溶け込みながら展示されていました。(現在はありません)



チャンドックン
《昌徳宮》



昌徳宮は 1405 年、正宮である景福宮の離宮として建造された宮殿です。1997 年にユネスコ世界文化遺産に登録されたました。

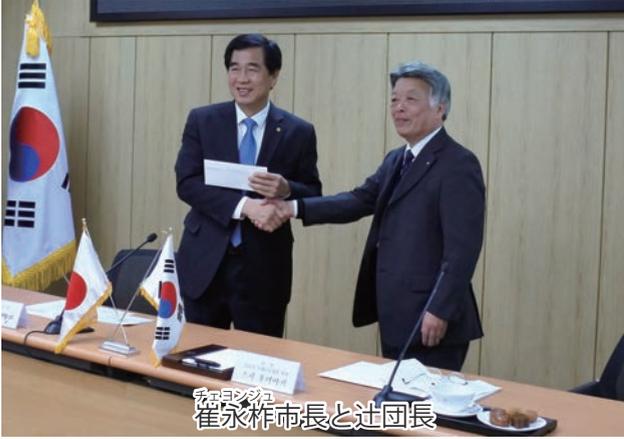
ウニョングン
《雲峴宮》

雲峴宮は、コジョン高宗（朝鮮王朝第 26 代国王）の父、フンソンドンウヨングン興宣大院君（1820～1898）の私邸で、高宗が生まれてから国王になる前まで暮らしていた家です。



文集の発行にあたって

3泊4日の派遣期間中、好天に恵まれ、全員元気で所期の目的である親善交流の役割を十分に果たすことができました。



崔永祚市長と辻団長

慶山市役所では、市長はじめ多くの職員に出迎えていただきました。大きな歓迎の看板、そして、市長室で懇談、会議室での歓迎式、市議会議長室での議長の歓迎式、議場見学等、行く先々での手厚い歓迎に感激いたしました。

今回の派遣のメイン行事の巳洞中学訪問では、校長先生はじめ、多くの生徒に校門から玄関までの出迎えを受け、大変な歓迎ぶりに驚きと感動がありました。

ホールで行われた歓迎式の後、中学生交流会では、韓国伝統遊びの体験や昼食には韓国のおせち料理を一緒に作り美味しくいただきました。

交流の際には、言葉の壁を心配しましたが、お互いが韓国語・日本語・英語と身振り手振りのコミュニケーションで意思の疎通を図り、大変楽しく交流ができ、心に残る思い出となったようです。帰り際には、ほとんどの生徒がメールアドレス等の交換をしていました。

当初の心配をよそに、やればできる。「百聞は一見に如かず」が実現したように思いました。若い生徒達の「何でも見てやろう、知ってやろう」という意欲の旺盛さに圧倒されました。

慶山市長、市議会議長、中学校交流会での挨拶についても、城陽の中学生は、ハングルを猛勉強してすべて韓国語で立派に挨拶をしてくれまし

た。

また、慶山市の^{サムソンヒョン}三聖賢歴史博物館、城陽公園、造幣公社、化粧品会社の見学、カップウイの登山。ソウルへのK T X (韓国の新幹線)、ソウル市内での地下鉄・バスの体験乗車。韓国大統領府の青瓦台前での韓国食文化紹介施設でのキムパとキムチチヂミづくりの体験、後漢陽都城博物館、ソウルタワー、世界遺産の昌徳宮、仁寺洞等の見学。そして、ロッテマートでの買い物と昼食は各自自由行動で楽しみました。これらを通して、隣国の歴史や文化、生活を多く吸収してくれたと思います。

最後に、北朝鮮のミサイル発射等の緊迫した状況も心配しましたが、城陽市の中学生達が親善交流大使の役割を十分発揮してくれたこと、また、全日程を予定通り終え、全員が元気で無事帰国できたことに大変感謝しています。



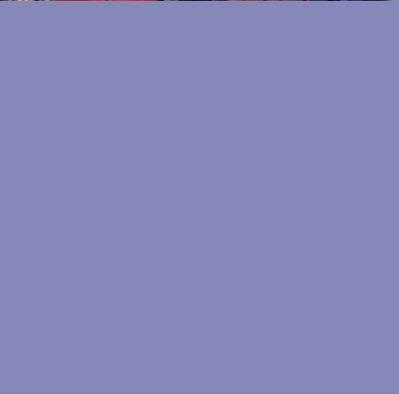
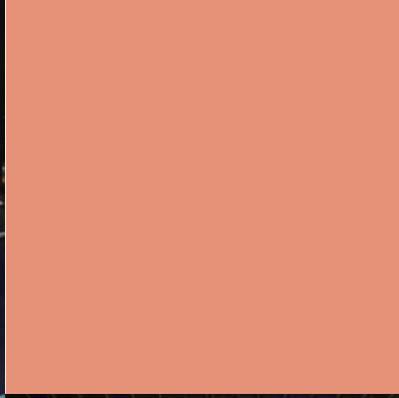
李平壽市議会議長と記念品交換

今後、この派遣団に参加してくれた中学生達ですが、この経験を生かして立派に成長し世界に羽ばたいてくれることを大いに期待しています。

今回の中学生派遣にあたり、奥田敏晴城陽市長様のご支援ご協力に感謝しお礼の言葉とします。ありがとうございました。

2015年度中学生韓国派遣団団長
城陽市国際交流協会会長

つじ ふみあき
辻 文明



JIEA

城陽市国際交流協会

編集・発行：
 城陽市国際交流協会
 〒610-0121
 城陽市寺田西ノ口7-4
 西邦ビル2階
 TEL :0774-57-0713
 FAX :0774-57-0714
 URL :<http://www.jiea.jp/>

